

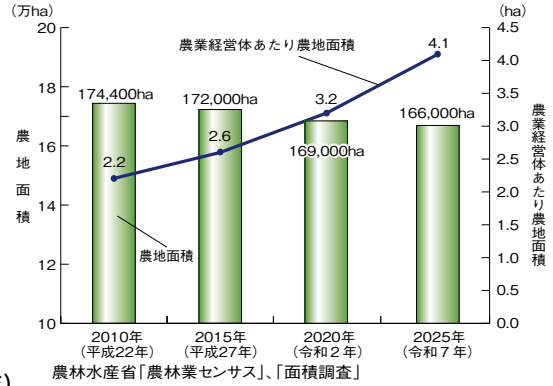
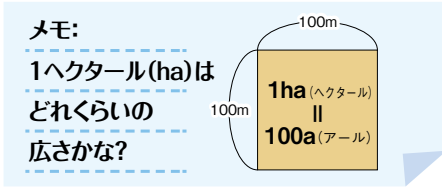
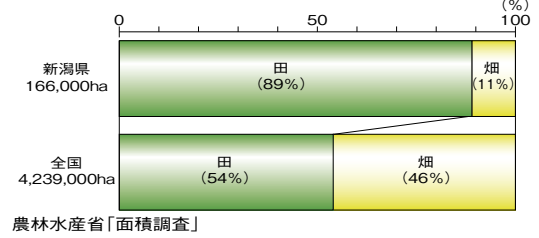
## ② 田んぼや畑の利用はどうなっているの？

新潟県の農業は稲作が中心で、農地の約89パーセントが田です。

畑は海岸ぞいの広い砂丘地や川の両岸、丘りょう地などで作られてきましたが、最近では田でも大豆や野菜などが作られています。

また、機械化が進んだり、農家の数が減っていることなどから、農業経営体あたりの農地は年々増えて、現在約3.2ヘクタールとなっています。

### ● 農地の利用のようす (2025年、令和7年)

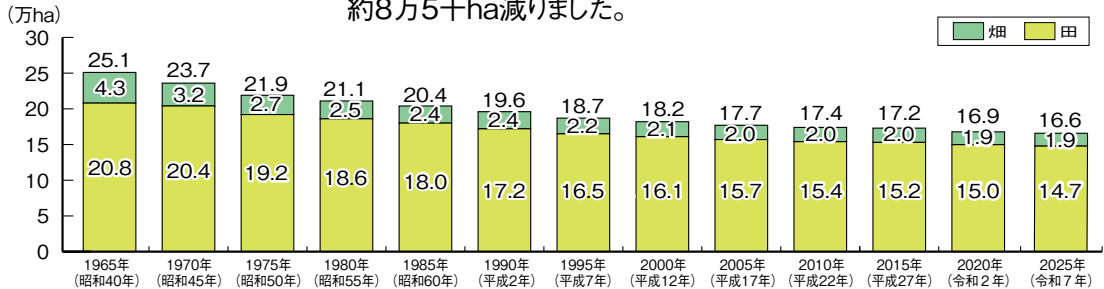


### ● 農家一戸あたりの農地の面積

新潟県	4.1ha
全国	3.7ha

(2025年、令和7年)

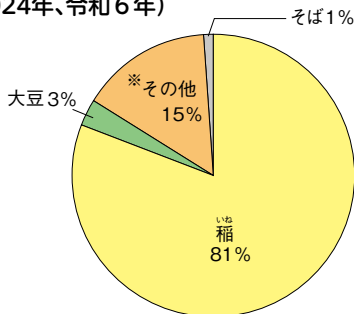
### ● 農地面積の移りかわり 新潟県の農地面積は昭和40年(1965年)からの60年間で約8万5千ha減りました。



新潟県の農地の80パーセントで稲が作られ、残りの約20パーセントの農地で野菜や果樹、花、大豆などが作られています。

一方で、耕作されなくなった農地(荒廃農地)が問題になっています。

### ● 作物別面積のわりあい (2024年、令和6年)



農林水産省「面積調査」 ※その他:野菜・果樹・花きなど

### ● 荒廃農地面積の移りかわり

